【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2005-516978(P2005-516978A)
【公表日】平成17年6月9日(2005.6.9)
【年通号数】公開・登録公報2005-022
【出願番号】特願2003-563604(P2003-563604)
【国際特許分類第７版】
Ａ６１Ｋ　35/18
Ａ６１Ｋ　35/14
Ａ６１Ｋ　41/00
Ａ６１Ｌ　 2/08
Ａ６１Ｌ　 2/10
Ａ６１Ｍ　 1/36
Ａ６１Ｎ　 5/06
Ａ６１Ｐ　 7/00
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　35/18
Ａ６１Ｋ　35/14　　Ａ
Ａ６１Ｋ　35/14　　Ｚ
Ａ６１Ｋ　41/00
Ａ６１Ｌ　 2/08
Ａ６１Ｌ　 2/10
Ａ６１Ｍ　 1/36　　５３５
Ａ６１Ｎ　 5/06　　Ｚ
Ａ６１Ｐ　 7/00

【手続補正書】
【提出日】平成16年10月7日(2004.10.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
赤血球を含む液体中の病原体を不活化するための方法であって；
前記液体に光増感剤を添加して混合物を形成することと、および、
前記液体および前記光増感剤の混合物を約470nmのピーク波長を有する光に曝露することと、
を含む方法。
【請求項２】
前記曝露する工程が光をパルスにすることをさらに含む、請求項1に記載の方法。
【請求項３】
前記曝露する工程が、前記光に対する混合物の暴露を止めるために、パルス光を消すことをさらに含む、請求項2に記載の方法。
【請求項４】
前記曝露する工程が、前記パルス光を消す工程の間に、前記混合物を混合することをさらに含む、請求項3に記載の方法。

【請求項５】
前記赤血球を含む液体が光透過性のバッグ内に含まれている、請求項1に記載の方法。
【請求項６】
前記光増感剤が内因性の光増感剤である、請求項1に記載の方法。
【請求項７】
前記光増感剤がイソアロキサジンである、請求項1に記載の方法。
【請求項８】
前記光増感剤がリボフラビンである、請求項1に記載の方法。
【請求項９】
血小板を含む液体中の病原体を不活化するための方法であって；
前記液体に光増感剤を添加して混合物を形成することと、および、
前記液体および前記光増感剤の混合物を約305～313nmの間の範囲内の光に曝露することと、
を含む方法。
【請求項１０】
前記曝露する工程が前記混合物を308nmのピーク波長を有する光に曝露することをさらに含む、請求項9に記載の方法。
【請求項１１】
前記液体の大部分を光に暴露するために、前記暴露工程の間に前記混合物を混合することをさらに含む、請求項9または10に記載の方法。
【請求項１２】
前記曝露する工程が前記混合物をパルスにされた光に曝露することをさらに含む、請求項9または10に記載の方法。
【請求項１３】
前記光増感剤が内因性の光増感剤である、請求項9に記載の方法。
【請求項１４】
前記光増感剤がイソアロキサジンである、請求項9に記載の方法。
【請求項１５】
前記光増感剤がリボフラビンである、請求項9に記載の方法。
【請求項１６】
血液成分および光増感剤を含む液体中の病原体を不活化するための処理チャンバであって：
ピーク波長で放射線を放射する少なくとも１つの放射線放射源;
照射される血液成分および光増感剤を含む前記液体を保持するための支持プラットフォーム;および、
前記放射線放射源を制御するための制御装置、
を含む処理チャンバ。
【請求項１７】
前記放射線放射源がパルスにすることができる、請求項16に記載の処理チャンバ。
【請求項１８】
前記支持プラットフォームが処理チャンバ内で多方向に移動することができる、請求項16に記載の処理チャンバ。
【請求項１９】
前記制御装置がさらに前記支持プラットフォームの前記移動を制御する、請求項18に記載の処理チャンバ。
【請求項２０】
前記支持プラットフォームが光透過性の材料でできている、請求項16に記載の処理チャンバ。
【請求項２１】
前記チャンバが少なくとも１つの反射面をさらに含む、請求項16に記載の処理チャンバ

。
【請求項２２】
前記支持プラットフォームが反射面を含む、請求項16に記載の処理チャンバ。
【請求項２３】
前記放射線放射源が複数の別々の光を含むアレイをさらに含む、請求項16に記載の処理チャンバ。
【請求項２４】
前記複数の別々の光を含むアレイが複数のLEDをさらに含む、請求項23に記載に記載の処理チャンバ。
【請求項２５】
前記複数のLEDが青である、請求項24に記載の処理チャンバ。
【請求項２６】
前記制御装置が前記パルスにされた放射線と協調して前記支持プラットフォームをさらに移動する、請求項16および19に記載の処理チャンバ。
【請求項２７】
前記血液成分が赤血球を含む、請求項16に記載の処理チャンバ。
【請求項２８】
前記放射線放射源によって放射されるピーク波長が約470nmである、請求項16に記載の処理チャンバ。
【請求項２９】
前記血液成分が血小板を含む、請求項16に記載の処理チャンバ。
【請求項３０】
前記放射放射源によって放射されるピークは長が約308nmである、請求項16に記載の処理チャンバ。
【請求項３１】
請求項9に記載の方法であって：
305～313nmの間の範囲の光を除く全ての光をフィルタリングすること、
をさらに含む方法。
【請求項３２】
前記フィルタリング工程が約308nmのピーク波長を有する光を除くUVスペクトルの全ての光を除去することを含む、請求項31に記載の方法。
【請求項３３】
前記フィルタリング工程が約313nmのピーク波長を有する光を除くUVスペクトルの全ての光を除去することを含む、請求項31に記載の方法。
【請求項３４】
請求項1に記載の方法であって；
前記曝露する工程の間に前記液体および光増感剤を混合して前記液体の大部分を光に曝露すること、
をさらに含む方法。